

基礎研究を支える 企業との連携

教育研究の充実や、公共性の高い課題解決のため、東京大学内には企業らによる支援の下で、寄付講座や社会連携講座が設置されてきた。これらの講座が果たす役割とは。都市環境工学分野に設置されてきた講座を紹介する。

寄付講座 下水道システムイノベーション

異分野と下水道の連携拠点

「連携」の拠点を
下水道システムイノベーション
研究室は、令和2年度に東京都下水道サービスの創立35周年記念事業として、未来を担う下水道人材の育成や下水道の発展への貢献を目的に設立されました。メンバー

は滝沢智教授を筆頭に、加藤特任准教授と野村特任助教です。下水道は転換点にあると思っ

ています。これまでひたすらに下水道普及率の向上を追いかけていたが、今は、建設から管理・メンテナンスの時代とも言われています。ゲリラ豪雨や資源利用、

地域の資源を循環
研究室の冠にしている「イノベーション」はそもそも、異分野や違う資質・知識を持つ人との融合でしか生まれません。人と人をつないでいくことでイノベーションを起し、付加価値を生み出していくことがミッションです。研究

人のマネジメント
「グローバルとローカル」の視点を有する人材として、学生、そして民間企業や自治体の若手もこの研究室でサポートします。1年後、高知大学や愛媛大学での勤務を経て、令和2年より現職。

【野村洋平氏】平成30年愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士後期課程修了。以後、高知大学や愛媛大学での勤務を経て、令和2年より現職。



東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻下水道システムイノベーション
研究室特任助教

野村 洋平氏



東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻下水道システムイノベーション
研究室特任准教授

加藤 裕之氏

地球温暖化、老朽化、持続的経営、PPPなど、下水道事業の目的や役割、政策が多様化しています。本講座では、さまざまな分野との融合も図りつつ、新たな時代に対応できる人材育成と下水道システムの研究、社会への発信を行うことを目的としています。

融合が求められる時代だからこそ、産官学と市民を含めた主体の融合、異分野との融合、地理的・空間的な融合——それぞれの連携拠点にしたいと思っています。ただ、研究室自体は単なる箱ではありません。「ここに人がある人間が架け橋となり、

【加藤裕之氏】昭和61年早稲田大学大学院理工学研究科修了、同年建設省入省。以後、国土交通省下水道部下水道事業調整官、同流域管理官、同下水道事業課長などを歴任。その後は日水コンなどで勤務を経て、令和2年より現職。

【野村洋平氏】平成30年愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士後期課程修了。以後、高知大学や愛媛大学での勤務を経て、令和2年より現職。

研究室のスタートとなった令和2年度は、TGSおよび民間企業との共同研究等として省エネ型の高度処理システムや都市の水の臭気問題、下水道資源の農業利用についての市民調査等を行いました。今後は、地域資源循環等についてさらに分野を広げていきます。

地域資源循環は大都市にも地方都市にとっても重要な問題で、「循環」は研究室が取り組む最も重要なキーワードと考えています。資源とお金を地域の中で回すシステムを構築し、都市経営の効率性と付加価値を高めていくような活動をお願いします。農・水産業、エネルギーなどの多様な分野との融合を強め、地域の市民、民間企業と協力しながら地域資源循環システムを構築・普及させるための理論と必要となるテクノロジーの両方を大きな研究テーマとしていきます。

【加藤裕之氏】昭和61年早稲田大学大学院理工学研究科修了、同年建設省入省。以後、国土交通省下水道部下水道事業調整官、同流域管理官、同下水道事業課長などを歴任。その後は日水コンなどで勤務を経て、令和2年より現職。

【野村洋平氏】平成30年愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士後期課程修了。以後、高知大学や愛媛大学での勤務を経て、令和2年より現職。

いう厳しい現実がわかりました。下水道事業では人・モノ・カネのマネジメントを推進していますが、今いる人のマネジメントでなく、裾野と入口を広げていくことが重要です。下水道の魅力や楽しさを少しでも多くの学生に伝えたいと考えています。そして、異分野のリーダーとして活躍する学生にまで広く伝えることは下水道の価値の社会への浸透、そして下水道と異分野の融合によるイノベーションに必ずつながるはず。学生の頭の片隅に残る刺激的な講義になるようにさまざまな工夫を続けていきますので、関係者の皆さまのご協力をお願いします。